

発表日	平成 30 年 10 月 30 日 (火)	発表形式	講演 or ポスター展示
所属・氏名	環境科学研究所 川上 進		
発表名称	「地盤 View」(横浜市地盤地図情報)の現状と今後について		
ジャンル	環境保全対策	部門	事業事例

### 1 はじめに

環境科学研究所では、オープンデータの一貫として、これまでに横浜市の工事等担当部署が発注した地盤調査の成果をデータベース化し、市民等が地盤状況を把握したり減災等に役立てられるよう、平成 17 年度から横浜市のホームページ「地盤 View」(横浜市地盤地図情報)で一般公開している(下図:赤丸がボーリングの位置)。今回、「地盤 View」と最近の利用状況等について紹介する。



### 2 ボーリングデータについて

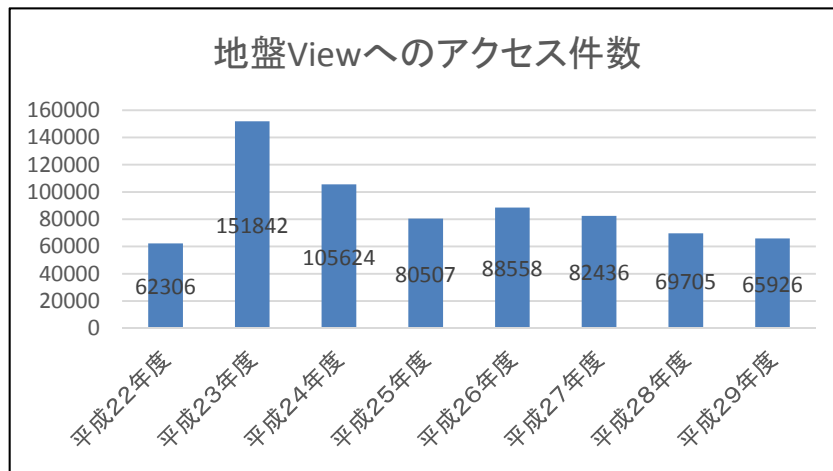
これまでに「地盤 View」に登録した土質柱状図は約 9,000 本になる。公開している地盤情報のイメージは下図のとおりである。右側の「N 値」とは地盤の強さを示す指標である。

土 質 柱 状 図

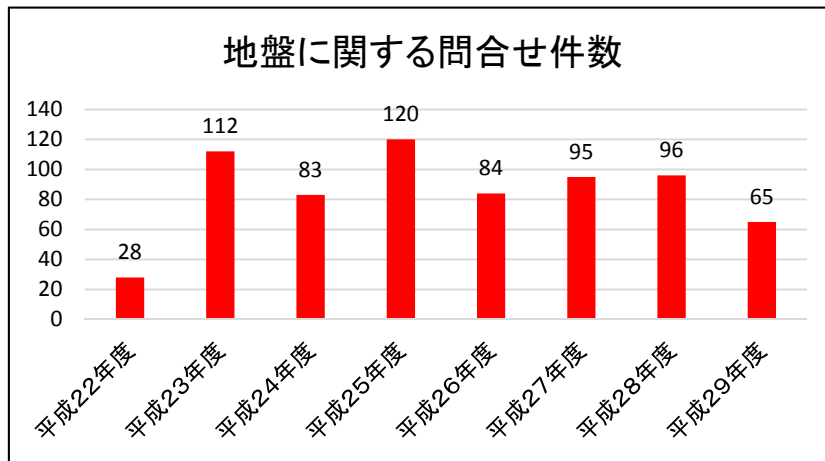


### 3 利用状況等

「地盤 View」へのアクセス件数の推移は下グラフのとおりである。東日本大震災後に急激に増加し、その後減少しているが、震災前のレベルより上回っている。熊本地震等、災害への関心が反映されていると思われる。



また、市民等からの地盤に関する問合せ件数の推移を下グラフに示す。やはり震災後に増加しているが、平成 24 年度以降はさらに高い件数となっている。問合せの内容は、「この土地は地震時に心配ないか」など住宅用地購入に際しての検討等個人からのものが多く、その他建築工事等に際しての民間業者からのもの等がある。庁内・庁外の問合せ内容を分類すると、「地盤 View」の今後の課題も見えてくる。



### 4 さいごに

東日本大震災や福岡市の道路陥没事故等を契機に、市民の地盤への意識が高まっている。また、民間・公共を問わず該当地の地盤状況の把握の必要性が感じられる。

安全・安心な生活環境の保全のために、地盤状況を監視するとともに、各部署からの土質調査結果報告書の提供促進や、オープンデータとしての地盤データの活用方法の提案が必要である。

【共同研究者】環境科学研究所 小林 健